

原味日本語

中国文化 日本文化 快乐读解

(日)平山 崇 编著



- 単語の語源や慣用句の由来がわかります。
- 古文や和歌を多数引用し、解説文を付けています。
- 様々な角度から中国文化と日本文化を比較研究できます。
- 一流学者の文章は日本語学習者の知的好奇心をも刺激することでしょう。
- 学者によって文体や言葉の使い方が異なり、それらの差異を知ることも日本語学習に大きな寄与となることは間違いありません。
- この本が「学術性」と「面白さ」を兼ね揃え、読者の皆様に満足して頂けることを、心より願っています。

原味日本语

中国文化 日本文化

快乐读解



中国科学技术大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

原味日语:中国文化、日本文化快乐读解/(日)平山崇编著.
—合肥:中国科学技术大学出版社,2009.2
ISBN 978-7-312-02440-5

I. 原… II. 平… III. ①日语—语言读物②文化—中国
③文化—日本 IV. H369.4G

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 211427 号

出版发行	中国科学技术大学出版社 安徽省合肥市金寨路 96 号,邮编:230026 http://press.ustc.edu.cn
印 刷	合肥学苑印务有限公司
经 销	全国新华书店
开 本	880mm×1230 mm 1/32
印 张	9.25
字 数	238 千
版 次	2009 年 2 月第 1 版
印 次	2009 年 2 月第 1 次印刷
印 数	1—3000 册
定 价	24.00 元

はじめに

この本の企画が持ち上がったのは2007年の夏頃でした。編集者の汪さんが、「日本人の中国研究者の文章を引用・編集して、日本語教材を作りたい」とおっしゃったのです。日本には中国研究の分野において著名な学者が大勢います。彼ら一流学者の文章は日本語学習者の知的好奇心をも刺激することでしょう。また学者によって文体や言葉の使い方が異なり、それらの差異を知ることにも日本語学習に大きな寄与となることは間違いありません。さらに言えば、日本語原文の本は中国の本屋ではほとんど販売されていません。ですから日本人学者の文章を一冊にまとめて学習者に提供することは大変意義のあることだと言えます。

しかしながら文章をただ引用して本を作ると著作権の問題が関わってきます。そこで検討を加えて、学者の引用文を必要最小限におさえ、かつ私の解説文をメインに編集することにしました。そして引用文で中国文化を説明し、私がそれに対比する形で日本文化を解説する体裁を取りました。多数の日本語教材が出版されている中国でも、この形式の本はだ書かれたことが無いのではないかと思います。学習者は本書を読むことで、自国の文化を学び、さらに日本文化との比較から共通点・相違点を知り、両国への理解を深めることができます。引用文は中国研究において業績のある学者の著作から集めて、範囲を広げました。トピックは合計21あり、扱う時代も古代から現代までカバーしています。

ところで昨年、同年代の日本人といろいろ話す機会があったの

ですが、彼は日本の歴史や文化に詳しく、一方の私は基礎的なことすら知らず、恥ずかしさと悔しきでいっぱいでした。大学を出ていることや、30代という年齢が、私にプライドを持たせています。しかし、いくらプライドがあっても「知らないものは知らない」のです。普通の人ができることでも「私がわからない」のは紛れもない事実なのです。私はこの徹底的な“無知”という自己認識をスタート地点にして書き始めました。

今年の2月、日本に滞在し、足繁く図書館に通って中国関連の書物を読み漁ってはコピーしました。資料の厚さはハリーポッターの小説2冊分ぐらいになりました。それを鞆に詰め込んで中国に来て初めにした作業は資料の厳選です。古過ぎる資料や表現に問題のある資料は使えません。結果的に全体の三分の二をボツにし、残りを使うこととなりました。

資料からさらに引用文を選び抜き、それと対照させるように日本文化の解説文を書きます。このとき参考にしたのは、手元にある2冊の文学通史の本と、インターネット上の各種サイトで。サイトには間違いもありますので、膨大な資料に目を通して、取捨選択し、または統合して、自分なりに事実を導き出し、妥当性のある推論を立てていきました。どんな些細な事でも矛盾や疑問が起こったらわかるまで調べ、正確な記述に徹しました。この執筆態度は上述した自己認識の賜物です。

今回の執筆で気付いたことがあります。一つは、数々の文化は断片的に学ぶより、歴史という時間的流れの中で把握するべきだ、ということです。文化が発生する前と後でどのような変化が起こったか、また一つの文化が他の文化といかに関わりあっているかも見落としてはいけません。縦断的、横断的な視点が深いレベルでの文化学習を可能にします。本書内でも一つの事

項につきたくさんの関連事項があり、合わせて読むとより理解できます。そこで関連事項がある場合には、「(始皇帝と聖徳太子参照)」というふうに記し、利便性をはかりました。

もう一つの気付きは、知識が増えると読書が楽しいという素朴な喜びです。例えば次に示す文章は夏目漱石の「草枕」です。

——黄檗の高泉和尚の筆致を愛して居る。隠元も即非も木庵もそれぞれに面白味はあるが、高泉の字が一番蒼勁でしかも雅馴である。——

この文章は知識が無いとただ字面を追うだけになります。しかし仏教の知識(黄檗、高泉和尚、隠元、即非、木庵)や日本語の知識(蒼勁、雅馴)があると、意味を掴むことができます。そして物語を十分に味わうことができるのです。

このことは本書にも当てはまります。しかしながら本書には難易度の高い項目があります。特に「私塾一師匠と弟子一」や「紅樓夢と源氏物語」などは、日本の歴史を知らないまま読むと混乱するかもしれません。こういうものは、事前に中国語で書かれた歴史・文化の解説書を読んで基礎知識をつけておくことをお勧めします。

さて、こうして本編を書き上げたわけですが、これだけだと面白さに欠けます。本がいくら学問的に有益なものでも面白くなければ読者に読んでもらえないのです。そこで「現代の流行語」など多少碎けたテーマで日本に関する文章を七つ書くことにしました。

本書の読者は、大学2年生以上の日本語学科の学生および現役の日本語教師の方々を想定していますが、大学1年生でもぜひ挑戦して欲しいと思いますし、日本語が分かる方で興味を持たれたらぜひ読んで頂きたいと思います。

本の出版に当たって、汪さんにはいろいろと温かいアドバイスを頂きました。心よりお礼申し上げます。

この本が「学術性」と「面白さ」を兼ね揃え、読者の皆様に満足して頂けることを、心より願っています。

平山 崇

2008年8月5日 誕生日に

本書の読み方

◆ 構 成 ◆

① 題名・著者・引用文

題名の下に引用文の著者名と略歴があります。著者の生没年や引用文が書かれた時代(本が出版された年)を考慮しつつ、読んでください。略歴の下には、その引用文の主題が〈 〉で表わされています。

引用文はその長さによって、引用〈1〉、引用〈2〉という風に分かれます。

注意: 引用文は原文に即して忠実に引用しましたが、古語などで表記上無理なところは改変しています。

飲食文化

筆者: 青木 正児(あおき まさる)

経歴: 1887 年～1964 年。京都帝国大学中国文学科卒業。京都大学教授。

出典: 中華名物考/平凡社/1998 年 (底本は1959 年、春秋社発行)

〈茶〉

□引用〈1〉

中華において茶の飲用を徴すべき最古の文献は、前漢の宣帝の神爵三年(西紀前 59)王褒の『僮約』(奴隷売買受証文)という戯れの文で、その奴のサービスを規定した條項の中に「茶を

注意: 引用文は原文に即して忠実に引用しましたが、古語などで表記上無理なところは改変しています。

② 解説文

引用文が終わると解説文が続きます。

●解説〈1〉

中国から日本への茶の伝来は大きく四期に分かれる。

第一期

第一期は奈良時代の遣唐使によってもたらされた時期である。それを証明する文献上の記載はないが、後年の1422年に書かれた「公事根源」には、「729年、季御読経における行

③ 単語解説

本文中の難しい単語、重要な単語は＜単語解説＞の欄で紹介しています。≡1≡は、引用文〈1〉および解説文〈1〉を意味します。

＜単語解説＞

≡1≡

徴する(ちょうする)[他五]……求める。要求する。「意見を徴する」

搗く(つく)[他五]……て形「搗いて」。棒の先で強く打って押しつぶすこと。

④ 文法解説

本文中にある日本語能力試験1級、2級の文法を＜文法解説＞の欄で紹介しています。①は能力試験1級、②は能力試験2級を表わします。○は試験と関係ありませんが、重要または難易度の高い文法です。

<文法解説>

≡3≡

① 食す可からず

文型:辞書形+べからず

解説:「してはいけない」の意。

例文:ここより立入禁止、入るべからず。

⑤ 研究課題

引用文と解説文を読んで、自分でさらに考え理解を深めるために、課題を用意しました。

研究課題

- 1) 中国では、お茶はいつ頃「薬」から「嗜好飲料」となりましたか。
- 2) 中国では、お茶はどのような過程を経て上流階級から庶民へと普及しましたか。

◆一覧表◆

単語・文法の解説で使われる品詞、活用形の略語は下の通りです。

○品詞一覧

【名】……………名詞 例:車、夢

【固】……………固有名詞 例:TOYOTA、富士山

【慣】……………慣用句 例:頭に来る、歯が立たない

- 【熟】……四字熟語 例:意氣投合、立身出世
【～する】…する名詞 例:勉強(する)、散歩(する)
【い形】……い形容詞 例:楽しい、美しい
【な形】……な形容詞 例:元気、複雑
【自一】……自動詞・一段動詞 例:消える、落ちる
【自五】……自動詞・五段動詞 例:開く、建つ
【他一】……他動詞・一段動詞 例:食べる、見る
【他五】……他動詞・五段動詞 例:読む、書く
【副】……副詞 例:恐らく、少し
【連語】……連語 例:いえども、によって
【連体】……連体詞 例:この、あらゆる
【数量】……数量詞 例:3人、5冊、一つ、二つ
【擬声】……擬声語 例:バン、とんとん
【擬態】……擬態語 例:ゾクッ、ふらふら

○活用形一覧

五段動詞/一段動詞/不規則動詞

- 受身形——読まれる、食べられる、される、こられる
ない形——読まない、食べない、しない、こない
使役形——読ませる、食べさせる、させる、こさせる
ます形——読みます、食べます、します、きます
辞書形——読む、食べる、する、くる
可能形——読める、食べられる、できる、こられる
意志形——読もう、食べよう、しよう、こよう
て形——読んで、食べて、して、きて
た形——読んだ、食べた、した、きた
普通体——

動詞/い形容詞/な形容詞/名詞

現在肯定:読む、赤い、好きだ、天才だ

現在否定:読まない、赤くない、好きではない、天才ではない

過去肯定:読んだ、赤かった、楽しかった、好きだった、天才だった

過去否定:読まなかった、赤くなかった、好きではなかった、天才ではなかった

本書を読むための参考資料

◆時代区分◆

本書には日本の各時代の様子が説明されています。下の表を参考にして時代を把握すると、よりよく理解できると思います。

時代区分		時 代	西 暦
古代 (こだい)	上代 (じょうだい)	弥生(やよい)	紀元前 3 世紀～3 世紀
		古墳(こふん)	3 世紀後半～7 世紀前半
		飛鳥(あすか)	6 世紀末～710 年
		奈良(なら)	710～794 年
	中古 (ちゅうこ)	平安(へいあん)	794～1192 年
中世 (ちゅうせい)		鎌倉(かまくら)	1192～1333 年
		建武中興(けんむちゅうこう)	1333～1335 年
		室町(むろまち)	1336～1573 年
		安土桃山(あづちももやま)	1573～1603 年
近世(きんせい)		江戸(えど)	1603～1868 年
近代(きんだい)		明治(めいじ)	1868～1912 年
		大正(たいしょう)	1912～1926 年
		昭和(しょうわ)	1926～1945 年
現代(げんだい)			1945～1989 年
		平成(へいせい)	1989～

注意:

- ・建武中興と安土桃山時代はその年数が短いため本書では扱っていません。
- ・各時代の呼び方にはいくつかあります。例えば平安時代なら、「平安朝」、「平安期」、または単に「平安」ということもあります。

◆歴史的仮名遣い◆

本書には古代や中世の古い日本語が出てきます。それらの表記は現代仮名遣いと異なりますが、一定の規則を知ればきちんと読むことができます。ここでは代表的な規則を紹介します。

- 1) 「ゐ、ゑ」「井、エ」は、それぞれ「い、え」「イ、エ」と読む。
ゐる→いる(居る)、こゑ→こえ(声)
- 2) 語頭以外の「は、ひ、ふ、へ、ほ」を「わ、い、う、え、お」と読む。
かは→かわ(川)、会ひます→会います、使ふ→使う、
まへ→まえ(前)、おほい→おおい(多い)
- 3) 「あう・あふ、かう・かふ、さう・さふ」などを「おう、こう、そう」と読む。
あふぎ→おうぎ(扇)、行かう→行こう、さうです→そうです
まうす→もうす(申す)、だらう→だろう
- 4) 「きう・きふ、しう・しふ、ちう・ちふ」などを「きゅう、しゅう、ちゅう」と読む。
きうり→きゅうり、美しう→美しゅう、えいきう→えいきゅう(永久)
- 5) 「けう・けふ、せう・せふ、てう・てふ」などを「きょう、しょう、ちょう」と読む。
けふ→きょう(今日)、でせう→でしょう、けうしつ→きょうしつ(教室)

6) 促音・拗音が「つ、や、ゆ、よ」という風に表記される。読むときは「つ、や、ゆ、よ」と小さくして読む。

あつた→あった、ちゃんと→ちゃんと

※参考・引用文献:「歴史的仮名遣い教室」(<http://www32.ocn.ne.jp/~gaido/kana/kana0.htm>)

目次

・はじめに	i
・本書の読み方	vii
・本書を読むための参考資料	xii
文語と口語の乖離	1
小説の変遷	14
古文復興運動	31
漢文と日本語	43
漢詩と日本文学者	55
紅樓夢と源氏物語	69
魯迅と森鷗外	93
始皇帝と聖徳太子	105
飲食文化	115
医学	131
国花	152
陰陽五行説	157
青銅器の装飾	169
古代都市	174
古代の家具と室内装飾	184
紙幣・印刷	189
私塾一師匠と弟子一	201
無政府主義・享楽主義	214
近代の習俗	231
劇・服・年中行事	242
姓名・結婚	253

<付録>

大学生活	263
ベストセラー	265
テレビ番組	267
怪奇現象	269
流行語・俗語・死語	271
日本人の発明品	273
偉人たちの名言	274
・ あとがき	277
・ 参考文献	279